

歴史文化財

古代から海に開け、
優れた航海術で自在に海を制した人々。
まちのあちこちには、
そうした先人たちの足跡が刻まれています。



約200年に及んで権力を誇った地方豪族の首長墓群として、貴重な津屋崎古墳群

素晴らしい歴史遺産

大小500以上の古墳があるといわれる福津市。中でも玄界灘に面した北部には、5世紀前半〜7世紀前半の古墳が、南北7km、東西2kmの範囲に集中して見られ、これらを総称して「津屋崎古墳群」と呼んでいます。前方後円墳などが現存し、そのうち40基は国の史跡に指定。宗像・沖ノ島の関連遺産群として世界遺産暫定リストに記載されています。

これらの古墳を築いたとされるのは、沖ノ島祭祀ともかわりの深かった豪族・宗像君一族です。優れた航海術を持つ彼らはヤマト王



「手光波切不動古墳」は自由に見ることができます

権の大陸交渉を支えていました。県道97号沿いにある飛鳥時代につくられた「手光波切不動古墳」は、切石を使用した石室を持っています。近世から近代にかけての津屋崎は海上交易と塩田で栄え、「津屋崎千軒」と呼ばれるほどにぎわいました。国の登録有形文化財、津屋崎千軒民俗館「藍の家」は、地元の人々の保存運動によって残され、築後百年を経た現在も文化交流の場として、訪れる人を温かく迎えて入れています。往時の面影を伝える周辺のまち並みは、平成18年に水産庁の「未来に残したい漁業漁村の歴史文化財産百選」に選ばれるとともに、「福岡県美しいまちづくり賞」優秀賞（景観賞）を受賞しました。



平成6年にオープンした津屋崎千軒民俗館「藍の家」は、明治34年(1901)、藍染紺屋を営む上妻家の住まいとして建てられたもの。館内では作品展やコンサートなどが催され、地元の人々によって管理運営されている

祭り

古くから伝わる、数々の祭り。
祭を通して一体になり、
親から子、子から孫へかけがえのない
きずなを守り伝えてきました。



地域のきずなを伝える

祭りとは本来、神様を祭ること。神様を迎え、もてなし、お送りすることが原点です。四季折々、さまざまな祭りが行われる市内の各地域では、それらを通して人々がきずなを深め、地域が一つになることを大切にしてきました。

有名なものには、正月3日に締め込み姿の男たちが繰り広げる玉せり、そして夏の津屋崎祇園山笠があります。山笠の起源は江戸時代。波折神社の祇園社に博多の櫛田神社から相殿神を迎え入れ、三本の山笠を奉納したのが始まりといわれています。戦争によって一時は中断しましたが、地元の人た



海で清めた大玉を先頭に諏訪神社に参拝し、境内と福岡海岸で激しく玉を競り合う



日本一の大注連縄や大太鼓、大鈴で有名な宮地嶽神社の御幸祭は、市内でも最大級の祭り



ちの強い熱意と努力によって昭和54年に再び岡流れ、北流れ、新町流れの3流れが完全復活。現在は毎年7月19日に近い日曜日に追い山が行われ、「オイサ、オイサ」の掛け声とともに豪壮な山がまち並みを駆け抜けています。秋は各地で神幸祭が行われますが、中でも王朝絵巻さながらの豪華絢爛な行列で知られるのが宮地嶽神社秋季大祭の御神幸祭です。みやびやかな奏楽や楽太鼓の音色の中、馬上の神職を先頭に、毛槍行列や稚児行列、ご神体を載せた御神輿や十二単をまとった祭王の牛車などの一行が、神社から宮地浜まで約2kmの道を練り歩きます。毎年芸能人が祭王に扮することで話題。期間中は、奉納民謡大会や武道大会なども催され、多くの人々でにぎわいます。